

■R03.04.23 臨時記者会見内容

日 時 令和3年4月23日（金）午後2時～午後2時40分
場 所 市役所本庁舎第1、2委員会室
出席者 市長、市議会議長、教育長、酒田地区医師会十全堂会長
副市長、総務部長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、健康福祉部長、
教育次長、危機管理課長、企画調整課長、観光主幹、健康課長

酒田記者クラブ 8 社（読売新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、NHK、
YBC、YTS、SAY）

■市長発表事項

【新型コロナウイルス感染拡大阻止徹底のための共同宣言】

市長／今回、こういう形で記者会見、共同宣言という場を設けさせていただきました。ご存知のとおり全国的に新型コロナウイルスの感染の拡大が見られる中でございます。共同宣言の文書の中にもございますけれども、国では、4 都府県で緊急事態宣言ということ、一方では山形県・山形市については、終結しようかという話も聞こえてきておりますけれども、酒田市におきましては、特に保育所でのクラスターが発生をしたと、それから、それに時期を合わせる形で、市内での感染が急増している状況でございます。

本日も1人感染ということで県の方から発表がございました。昨日までの直近一週間では21人という状況でございます。一週間あたりで見えますと、昨年12月、山容病院でクラスターが発生しました。その時期12月上旬の発生人数、過去最高だったんですけど、23人であった。それに迫っている状況がみとれます。ゴールデンウィークも間もなくやってくるということから、今日、関係者で緊急記者会見、共同宣言の発表という場を持たせていただきました。

私は、酒田市の新型コロナウイルス感染症対策本部の本部長と対策を司らせていただいておりますけれども、小松原議長は、議会の中に新型コロナウイルス感染症対策支援会議を持っておりまして、そういう意味で議長も一緒に同席をいただきました。

それから、鈴木教育長におかれましては、特に小中高の児童・生徒さんの感染者が出ているということもありまして、学校の対応という意味でも今日、同席いただいたところでもあります。

そして、酒田地区医師会十全堂会長の佐藤顕先生、日本海総合病院長の島貫先生につきましては、私どもの感染症対策本部会議で、専門家会議という形でアドバイスをいただいております。それから、医療人としての見解も当然ございますので、そういう意味では、この地区の医療環境を守るお立場から、二方からも賛同をいただいて、この場を持たせていただいたということでございます。日本海総合病院につきましては、第二種感染症指定医療機関ということで、実際に感染された患者さんの受入れもやっておりますので、そういう意味では、この5者でもって共同宣言するということについて、酒田市民に対してで

すね、しっかりと感染予防対策を講じてもらいたいと、そういうメッセージを伝えたいという思いから、このような場を持たせていただいたという次第でございます。

今回の酒田におけます感染者の拡大については、実は幼児、これは子供の園さんからクラスターが発生、幼児、中学生、高校生という形で、感染が拡大しております。全世代、幼児から高齢者まで、世代に関係なく感染者が出ているということで、非常に危機感を持っているところでございます。そして、そういった方々からの家庭内感染ということも非常に危惧されるところでありますし、現時点でも感染者の関係された方々について、PCR検査を実施しているということで、保健所の方からは伺っているところでございます。その結果については、一両日中に分かるということでございますけれども、現時点でこのくらい多く発症している、感染者が出ているということではすね、地域としても、大変危機感を持ってこれからの状況を踏まえなければいけない、このように思っております。

お手元に共同宣言の文書を配付させていただきましたけれども、まずは、この6項目、このことをしっかりと、市民の皆さんからご理解いただいて、これ以上感染拡大にならないように、是非、地域をあげて取り組んでまいりたいとそういう思いでいるところでございます。

詳細については、また後ほど読んでいただければと思いますけれども、まずは手指消毒の徹底と細やかな換気の励行、それから、マスクは不織布マスクを着用して予防しましょう、それから体調がすぐれない場合は、早期にお医者さんにかかっていることですね、感染となれば、それに沿った対処に臨んでいただきたなと思います。

それから、会食は、できればいつも一緒にいる人と、短い時間で行っていただきたい。このことは、大変地元の飲食業の皆さんには大変厳しい環境をお願いすることになりますけれども、まずは、感染拡大防止のために、市民の皆さん、事業者の皆さん、ご協力をお願いしたいとこのように思っております。

それから、間もなくゴールデンウィークがやってくるわけでありまして、是非、県境を跨いだ移動につきましては控えていただければと思います。

最後ですけれども、事業者の皆様ですすね、もし仮に、これ以上感染拡大となりますと、学校、保育所、学童保育も含めてですね、なかなかそこに子供たちが行かない場面も想定されます。その際には、やはり親御さんが、保護者の皆さんが、面倒を見ないといけない訳で、その際にはお勤めをどうしても休まなければならないという状況も生じてくるだろうと思いますので、是非、事業者の皆様には、子どもさんがいらっしゃる市民の皆さんの休暇取得についても、ご理解をお願いしたいと、この6項目について、今日の共同宣言で発して市民の皆さんのご協力をいただきたなと思っております。

医療従事者の皆さんの精神的な負担はかなり増しているんだろうなと思います。とりわけ、日本海総合病院という感染症の指定医療機関を酒田市は抱えておりますので、そういった意味では、医療従事者の皆さんを守るということも、本当は大きなこれから課題になってまいりますので、そこを我々非常に重視しまして、地域医療も守るという観点から是非地域の皆さんにご協力をお願いしたいとこのように思っています。

それでは、せっかくでございますので、ご同席いただいた皆様方からも一言ずつコメントを頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

市議会議長／市議会としましても、先ほど、市長からあったように全議員で構成する酒田市議会新型コロナウイルス対策支援会議を設置しておりますので、市の対策本部と連携して、感染拡大の防止を図っているところです。議会としても、今回の状況は極めて憂慮するものであり、今の対応が、今後の明暗を分けると考えています。市民の皆様には、本日の共同宣言を踏まえた対応をしっかりと取り組んでいただくことと、改めて感染予防の徹底をよろしくお願いいたします。

また、感染者などに対する誹謗・中傷が行われることが絶対無いようお願いいたします。

教育長／教育委員会としましても、今の状況につきまして、大変危機感を持っております。皆さんご承知だと思いますけれども、感染が確認された市内学校2校で既に臨時休校に入っております。文部科学省の通知では、感染者が出て直ちに休校することなくとなっておりますけれども、本市のマニュアルで直ちに閉じて感染拡大を止めようということで対応しているところです。

再開につきましても、周辺生徒の関係の教職員も含めた周辺の検査が終わって安心安全が確認されるまで再開をしないということで、確認された時点で再開しようと考えているところです。なお、今2校ですけれども、さらに感染が広がるということになってくれば、更なる違った対応をして行かなければならないかなと考えているところです。

今回のことを受けまして、年度初めの校長会では学校のチェックリストというものについて確認していますけれども、改めて、そのチェックリストの確認を徹底するように求めているところです。

また合わせて、保健所から指導を受けているような換気のことですとか、様々指導を受けておりますので、改めて学校での指導徹底を図ってまいりたいと考えております。

医師会長／先ほど、市長さんからのお話にもありましたが、昨年のピークは12月でしたけれども、あの時は、病院でクラスターがあって患者数も増えたんですが、発生場所が、あの一箇所だったので、比較的限定的であって、関係各位の懸命な努力もありまして、かなり早期に封じ込めに成功して収束に導くことができたことと記憶しております。

今回が前回とちょっと違うのは、発生場所が、多岐に渡っていて感染の連鎖が複数あると見られているということです。今日、県の方から発表がありましたが、鶴岡市で10人の高校生が出ると、また周囲にも感染者が出るということで、かなり幅広に感染が広がっているのではないかとということが強く疑われている訳です。

我々の地域でも、学校でも、それなりに感染対策をやってきた中で、なおかつこの感染が出ているということに、我々医師会としても非常に危機感を覚えている訳で、これはつまり、今までやっていることでは、ちょっと感染拡大を防止できないのではないかと、そう

いった危険性も少し出ているふうに感じているところです。ただ、もしかすると、市民の間にもコロナ疲れと言いますか、コロナ慣れみたいなどころがあって、もしかしたら、少し気が緩んでた部分があるのであれば、この宣言を機会にもう1回きっちり気持ちを引き締めて、今までやってきた3密の回避であるとか、不織布マスクを装備する、あるいは換気を徹底する、手指衛生など、基本を忠実にまずやり抜いて、この感染の拡大を防止していきたいと思います。それでも、もし感染が拡大するという事になれば、もちろん県の方とも協議しながら、次なる踏み込んだ対策も必要になってくる場面も出てくる可能性はあるのかなと、それぐらい危機感を強く持っておりますので、この宣言を機に、なんとかこの地域の流行を収束させることが出来ればと感じております。

市長／非常に、我々は、危機感を持っております。この新型コロナウイルス感染症の関係でいうと本音と建前というのがあるんだと思うんですけども、建前は、これまでも新しい日常に対応した新生活様式という形を言っていました。1年以上も経ちまして、酒田市も感染者が少ない時期がございましたが、やはり少し気持ちの上でひよっとしたら緩みがあるのかなと、思いも持っていたのですけれども、そうした矢先に、中学生、高校生が出てきたと。そして、先ほど佐藤頭先生からもありましたけれども、12月のように1つの病院で出たクラスターではなくてですね、その中学生、高校生のご家族にまた感染し、そのご家族が医療従事者だったりすると、これは大変なことになるよな、そういう強い危機感を実は持っております。そういった意味では、是非この時期にしっかりと、収束させなければならない、という強い意思を持って今回、この共同宣言に臨ませていただきました。

今、まだPCR検査をやっている方々もいらっしゃる一んですけども、その結果如何によっては、さらなる強い行動を我々は取らなきゃならないのではないかなと強い思いを持っております。その際には、市民の皆さんに行動の自粛をお願いするだけでなく、何らかの支援対策を打なければならないという状況も十分考えられますので、先程の市議会（4月臨時会）でも質問が出ておりましたけれども、経済対策についても我々は覚悟していかなければならないと思っております。

当然のことながら、山形県、庄内保健所の方とも十分連携を取りながら、対処方法については、じっくり検討していきたいと思っております。

それから、5月になりますと、我々ペイペイ（PayPay）のキャンペーンがあります。これは、経済支援という形でやっておりますが、粛々とやらせていただきますけれども、5月は、酒田まつりなどもある訳でございます。こういったイベントについては、今のこの状況を鑑みるとですね、なかなかそれをやりましょうという環境ではないと、私は理解しておりますので、やはりこれは中止するという事も視野に入れて、主催者側にはしっかり意見は申し述べていきたいなと思っております。

記者／この宣言は、この記者会見という形で我々が伝える部分があるかと思うんですが、結局、直接的に市民にメッセージが伝わらないと意味がないというか、ある程度、学校と

か分かっているところがあるとすれば、そういったところに直接伝える何か手段がないと、効果が出ないのではないか。

市長／そうですね。私一人の記者会見だと押し出しが強くないだろうということで、関係する方々からも同席をいただきましたし、もちろん報道の皆さんからこのことを伝えてもらおうと同時に、関係機関についてはしっかり文書にして、皆さんの方に配付をしたいという形でアピールしたいと思います。学校は、学校でまた伝わる伝達方法についてはしっかりと工夫をしていただきますので、そういった意味で我々のこの思いを感じ取ってもらえるようなあらゆる手段を通じて、アピールをしてまいりたいと思います。

記者／市民に対して配布するとかになるのか。

市長／そうですね。可能な限り、そういう配付する、あるいは施設に貼るとか、もちろんホームページとか、フェイスブックだとかそういったものの媒体は活用いたしますけれども、目に触れるような形で、皆さんにお伝えできればなと思っております。

記者／佐藤会長にお話をお伺いしたいと思います。市長がおっしゃった、PCR検査の結果如何では、より強いメッセージ、措置を取らないといけない趣旨のお話がありましたが、その中の指標の一つとして、医療の提供体制が一つの大きな判断基準になっていくと思うんですけども、現状、庄内地域、酒田市における医療の提供体制というのは、今、病床使用率とかどれくらいのものでしょうか。

医師会長／本当は、島貫院長がいらっしゃれば、島貫院長からお答えできれば良かったのですが、今日の朝のメールで情報交換したところ、重症患者はおらず、入院患者も、16名ということでした。幸い、発生している患者層が若いので、比較的皆さん重症化せず、なおかつ早期に退院できているので、現時点では、全く医療が逼迫しているということはありません。

ただ、もし高齢者施設などに感染が及んでしまうと、ここら辺は、東京のようにベットがいっぱいある訳でないので、一夜にして医療が逼迫するという、そういう危険性を、我々は、危機感として共有しているということでもあります。

記者／病床数、ベットで言うとどれくらいなのでしょう。

医師会長／県で発表している数字と、現実に運用できる数字というのは、ちょっと異なるんですね。やはり2人部屋とか、4人部屋とかがあっても、そこに皆を入れるわけにはいかなかったり、男女の問題だったり、様々なものがあるので、島貫先生に言わせると、もう半分が埋まると凄く忙しいんだそうです。特に入っている人のレベルによるわけですよ。自分で自分のことができる人はそんなでもないのですが、人口呼吸器が付くとか、酸

素投与でベットにとりますと、体を拭いたり、食事のお世話とか様々発生してくるので、ですから数字だけでは表せないスタッフの疲労とか、過重な労働というのはあるようなので、現時点では医療は逼迫していないけれども、いつ何時変わるのか分からないということだと思います。

記者／今現在、中学校2校を含め、市内で臨時休校措置を取られている学校はいくつあるのでしょうか。

教育長／今日現在では、その2校だけです。

記者／昨日の1393例目の高校生が通う高校の方はどうなっているのか。

教育長／現在、市内の高校で休校しているところはないかと思います。

記者／学校の再開の見通しは、まだ立っていないということよろしいでしょうか。

教育長／先ほども申しあげましたけれども、安心安全が確認できるまで、つまり、今関係者の検査に入っておりますので、全ての結果が出て、なおかつそこからの広がりがないという判断ですとか、そういうことを踏まえて、保健所さんの指導を受けて、安心だということが確認されてからでないとは再開できないと考えておりますので、今の段階で何日というのは、なかなか申し上げにくいところがあります。

記者／今行われているPCR検査如何では、さらに厳しい対策、あわせて経済対策を取らなければいけない状況になるかもしれないという危機感を表されたんですけども、現状、県のホームページを拝見しますと、庄内地域レベル3ということですが、これが要はPCR検査如何ではレベル4、さらに5という大きなところに飛び火してしまうと可能性を皆さんが認識されているというふうに受け取ったんですが、4さらに5となってしまった場合に、例えば飲食店への時短要請であったりとか、あるいは酒田市に対する緊急事態宣言の要請であるとか、今後の状況が変わった場合、そうした措置を県と共同で取る意向というか、取る可能性というのはどうなんでしょうか。

市長／状況によっては、山形市が緊急事態宣言を、レベル5に該当しておた訳ですけども、酒田市もそういう状況になれば、県の方へもお願いをしつつ、県の判断を待って、そういう宣言というのも十分考えられると思っております。県と山形市のときは、時短要請とかやられましたし、それに対して支援金もお支払いしてたかと思えます。そのような対処も我々も必要になってくるでしょうし、そこまで行かないまでも、なんらかの経済支援対策を打たなければならぬ場面も考えられるかなと、そういう思いであります。従いまして、今検査をしている人たちの結果を踏まえて、改めてそういう判断の場を設けて、

県と相談もしながら、対応していきたいと思います。

記者／検査の結果ももちろんあると思うんですが、今、この共同宣言の中で、事業者さんには厳しいことを承知でということで、会食は短時間でというメッセージもあったかと思うんですが、その経済対策として、飲食店であるとか、カラオケのある店とかになってくると思うんですが、経済対策を打つとしたら、いつ頃とかのお考えはあるでしょうか。

市長／感染者の拡大の状況を踏まえて、もう一度、市としての対処方法を協議させてもらいますが、その時点で私は経済対策もセットだと思っております。先ほど緊急事態宣言のお話もありましたけれども、山形県・山形市のときもそのような対応を取られたらと思っておりますし、私どもも感染拡大によって、これは一定程度強力な歯止めを講じなければならぬとなれば、あわせて経済対策の支援の方もやっていきたいと思っております。

市長／あと、この場に貼らせていただきましたが、ストップコロナ差別ということで、12月に酒田市民が守る3つの宣言をやっておりまして、感染者とその家族を非難しませんというのが一つ、それから、不確実な情報は信じません、それから3つ目が健康とくらしを支える方々を応援します、これは今日、共同宣言で6項目をお願いしましたがけれども、あわせて引き続きこのことは基本的人権を守るという意味からも、コロナ差別をしないということについては、市民の皆さんからもご認識をいただきたいし、市民以外の方々からも、この辺はしっかりと勘案していただければ有り難いなと思っております。あわせて、以前出した宣言についてもこの場でアピールさせていただきたいと思っております。

記者／緊急事態宣言等には、ある程度基準があると思うんですけど、山形市のケースとか、内陸でいろいろあったケースと、酒田市は発生・拡大の経過が違うと思うんですが、ある程度数字的な目安で考えるのか、あるいは、そこはこだわらず総合的に判断するという形でしょうか。

市長／やはり数字だけではないんだと思います。クラスターが何か所で出ているんだとか、夜の飲食店の状況だとか、単純に山形と酒田を比較はできないんだろうなと思っておりますので、その辺は、いろんな方々の意見を聞きながら、決めていきたいし、山形県とも相談していきたいと思っております。

総務部長からも県にいろいろ話を聞いているところであります。

特に、私どもやっぱり重視しているのは、医療従事者に影響が出るような感染拡大が出た場合には、やはり人数もありますけれども、その辺のところも訴えかけながら、緊急事態宣言をもし出すとすれば、県の方ともその辺を相談させていただけたらなと思っております。

記者／医療従事者に出た場合というのは、日本海総合病院を抱えている市としての意味合いがあるということか。

市長／そういう意味合いもございます。医療従事者というのは、そういう方々だけではなくて、各民間の医療機関ですとか、市内には本間病院もありますし、山容病院もありますし、いろんな医療機関がございます。それから、介護施設等々、社会福祉施設もございませので、そういった意味で、クラスターだとか、それに従事している職員の皆さんへの感染拡大ということも考えていかなければいけないかなと思っております。

市長／これからワクチン接種も来るわけです。それも医療従事者の皆さんにお願いしているということがありますので、そちらに支障が出てきても、これもやっぱり我々としては危機感を持って考えておりますので、もし、記事に取り上げていただく際は、その辺のこともご配慮いただければと思います。